

工業合金三芳 群馬積層造形プラットフォームに加盟 3Dプリンタ用金属粉の事業化調査

銅合金の鑄造品・鍛造品などを製造する三芳合金工業(本社・埼玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏)はこのほど、群馬積層造形プラットフォームに加盟した。3Dプリンタ用の

金属粉の事業化について見極めるための調査・研究活動の一環。萩野社長は「幅広い角度から積層造形について学ぶ必要があると考えている」と話している。

2021年に発足した群馬積層造形プラットフォームは積層造形技術に関する人材育成や共同開発などを推進する一般社団法人。積層造形によって新たな価値を創造し、ものづくり産業の発展に貢献することを目指している。

人材育成では入門や上級などレベルに応じた教育プログラムがあり、3Dプリンターを用いた実用的な内容も提供している。三芳合金工業は将来的に3Dプリンタ用の金属粉などの事業展開を視野に入れている。新規事業の見極めなどのため、従業員が教育プログラムを受講するなどして、3Dプリンタに関連する知見を蓄積したい考え。「加盟を通じて積層造形技術に関する可能性を探っていききたい」(萩野社長)という。